



経営理念について

前徳島市長 三木 俊治

大正10年5月のご創業以来恐らく幾多の困難を克服され、ここに80周年を迎えられる事を心よりお慶び申し上げます。

戎谷一平社長とは、ふとしたご縁からおつき合いが始まりもう20年になろうかと存じます。

今回「80年史」発刊に際し私では不適格ではと思いつつも寄稿させて頂き光栄に存じています。

大竹組は当初、民間工事を主として請負う建設事業として始まりますが、時代の変化に伴い適確に対応され、昭和26年株式会社となり、戎谷利平社長になられてからは県南の漁港整備、港湾整備等、世の為、人の為となる公共事業に力を尽くしてこれ県南に於いて大竹組は無くてはならぬ存在となりました。その後継者の戎谷次郎社長の時代もナンバーワンの地位はゆらく事なく、そして今、後継者の戎谷一平社長にこの歴史と伝統は受け継がれています。

10年一昔が今は1年一昔、いや1ヶ月一昔と言われる程に時代の変化は速く激しい。しかも価値感が多様化し昨日の正義は今日の悪となってしまう。我々は、環境革命にぶつかった最初の世代です。とかく初期はいきすぎがありムードに流され、付和雷同しがちですが、正しい事は正しい、間違いは間違い、とはっきり言える勇気を持たねばなりません。

「自然を壊す、環境を悪化させてはならん」これは正論です。誰しもそうありたいと願っています。同時に自然を守る為には、人間社会の安全は犠牲にしても止むを得ないと言うのは大間違いだと思います。自然との調和共生のもとによりよき社会を築いていく事が必要でありこれが大竹組さんのみならずあらゆる業界にとっても時代のキーワードでしょう。

私の経営する阿波製紙なども絶えずその点に思いを致しつつ事業をやっています。阿波製紙の経営理念としては、

- (1)商業道徳合一主義
- (2)利益の追求
- (3)社会貢献と環境保全が柱となっています。

大竹組さんは創業以来80年間、常に必要な事業を信用第一に続けてこられました。

今後も歴代社長の立派な経営理念を引き継ぎ徳島になくではならぬ会社としてかぎりなき発展を続けられますよう祈念致しております。